6/20 ヨシュア記 6 章 1-21 節「主に信頼する戦い」

小池 宏明 牧師

エジプトから救い出されたイスラエルの民は、その不信仰のゆえに、40 年も荒野で生活した。そんな彼らが、主の導きでヨルダン川を渡り、約束の地カナンに入って最初に対峙するのがエリコと言う大きな町だった。この町は古くから祖先崇拝が盛んで、発掘される遺物の中には、宗教的な儀式に使われたドクロ（頭部骸骨）が多数発見されていた。主なる神様は、罪と汚れに満ちた町エリコを滅ぼすためにイスラエルを用いられるのだ。エリコの町は奇蹟的にヨルダン川を渡って来たイスラエルを恐れて城壁を堅く閉じていた。

＊主の方法で勝利する

ヨシュアは、自分流の戦いではなくて、先頭に立って前進される主に付き従って、主が命じられる戦い方でエリコに立ち向かうことを決心していた。主が命じられた戦い方は、次のような不思議なものだった。武装した兵士を先頭に、七人の祭司が七つのラッパを持って続き、その後に、祭司たちが担いだ「主の箱」（契約の箱）が続く。さらにしんがりが角笛を吹き鳴らしながら付いて行く。この隊列は、六日間は、無言のまま、一日一回城壁の周りを廻る。角笛だけが響かせる。そして 7 日目は、7 回廻り、角笛を吹きながら「ときの声」を上げるのだ。

ここで、大切なことは、どうしてこのようなことをするのかよく分からなくても、イスラエルの民が忠実に主の命じられた通りに行ったことである。これは、イスラエルの民が、主なる神様の御声に聴き従った献身のしるしなのだ。彼らは、忠実に、整然と主なる神様のご命令に従い通した。エリコは見事に陥落した。

＊主に聴き従う戦い

今日のメッセージの題名は「主に信頼する戦い」とした。主に全き信頼をおく生き方は、一見難しいように思えるだろう。しかし、ヨシュアをはじめイスラエルの民は、主の御ことばに聴き従うことにおいて、まさに勇敢であった。武器を持って戦う勇気ではなくて、主に聴き従うことにおいて、勇気を持って忠実に励んだ。私たちも、人生の導き手を自分自身とするのではなくて、主なる神様に明け渡し、主の戦い方で、主に聴き従って歩んで行きたい。これが実はシンプルな生き方である。このような生き方は一朝一夕にできることではない。日々聖書を通して主の御声に聴き続けること、日々主なる神様に心を開いて祈り続ける積み重ねが、主に導かれる生き方なのである。